# 三州瓦展示支援と瓦に関する東北三県震災復興状況調査について

### 1. はじめに

常滑窯業技術センター三河窯業試験場は、日本一の瓦生産量を誇る「三州地域(現在の主要産地は高浜市、碧南市、半田市)」に立地し、瓦等に関する研究開発、技術支援等を行っています。この度、三州瓦業界の「建築・建材展」展示支援及び東北三県の震災復興状況調査を、当職員2名によって行いましたので、ここに、その概要を報告します。

## 2. 三州瓦業界の展示支援

平成25年3月5~8日まで東京ビッグサイトで開催された「建築・建材展2013」において、地元三州瓦業界の愛知県陶器瓦工業組合は「あいち三河の窯業展」と題して、多彩なバリエーションで耐久性に優れた三州瓦(粘土瓦)を中心に、陶土器・煉瓦など環境に優しい自然素材、それを使ったディスプレイ等展示しました(図1)。その中で、当試験場と組合、名城大学が共同で開発した棟瓦の耐震施工(ガイドライン工法及び既存棟瓦耐震補強工法、図2)を紹介したコーナーがあり、当試験場の職員が耐震技術を説明しました。来場者の反応から耐震施工に対する関心の高さを実感しました。

#### 3. 東北三県の震災復興状況調査

先の東日本大震災において主な被災地域である岩手県、宮城県、福島県の復興状況調査を行うため、宮城県岩沼市建設部復興整備課及び一般社団法人全日本瓦工事業連盟の各県瓦工事業組合を訪問し、聞き取り調査を行いました。

岩沼市では、住宅被害は主に津波によるものであり、地震の揺れによる損壊は少なかったそ



図1 愛知県陶器瓦工業組合の展示

うです。住宅の再建は今後 1~2 年で終了し、公 共施設については、2~3 年かかる見込みです。

岩手県では、震災による屋根の被害は主に30~50年ほど前の棟瓦が中心でした。棟瓦を他の地方より高く積む習慣があり、10段程度積んでいたことが主な原因と考えられます。近年建築された建物は、ガイドライン工法に基づいて建てられており、被害は見られなかったそうです。

宮城県では、屋根瓦の損壊は東日本大震災の本震で起こったのではなく、その1週間後の余震によるもので、被害を受けた屋根は耐震施工をしていませんでした。震災による屋根修理の依頼は3月時点でほぼ終了しているそうです。

福島県については、福島第一原子力発電所事故による放射能拡散被害が主であり、屋根の雨樋などに溜まった放射性物質の除染が今後の主な業務になるそうです。

#### 4. おわりに

今回の聞き取り調査に協力して頂いた方々からは、今後の参考となる貴重なご意見を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

当試験場は瓦関係の耐震試験をはじめ試験研究業務を行っていますのでご相談ください。

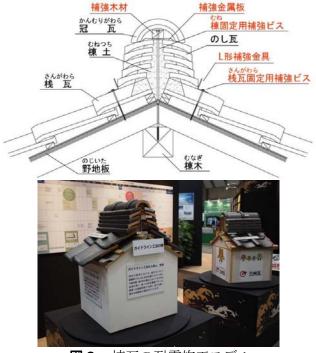


図2 棟瓦の耐震施工モデル



常滑窯業技術センター 三河窯業試験場 深澤正芳 (0566-41-0410)

研究テーマ: 粘土瓦用低温焼成素地の開発

担当分野 : 窯業